

ま え が き

ここに、平成22年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修・研究の成果の一端を「平成22年度研修員研究集録（第36集）」として刊行いたしました。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まり、昨年度まで県内各地方に送り出した研修員はのべ468名に上ります。研修員を経験した教員は、各学校・地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

「生きる力」をはぐぐむという理念を継承し、平成20年3月に小学校・中学校学習指導要領、平成21年3月には高等学校・特別支援学校学習指導要領が告示されました。各学校においては、新しい学習指導要領への移行が進められているところです。

こうした中で、研修員は、教員としての資質の向上と見識の涵養に努め、各学校や地域の教育を推進していく実践力を身につけるため、1年間研修に取り組んできました。

昨年度までの研究は、長期研修員と当教育センター職員がプロジェクトチームを編成し連携して研究に取り組む「指定研究」と、教育相談に関する「課題研修」の2本柱で進めてきました。本年度からは、各学校の教育課題を解決するための実践的研究として、「課題研究」という枠組みを新設しました。どの研究も、教育現場で直面している課題の解決をねらいとしています。

これらの成果については、本年1月29日に第1回和歌山教育実践研究大会において、概要を報告しました。各学校においては、この研究集録とともに、当センター学びの丘のウェブページに掲載している関連資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成23年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所 長 稲 生 淳